



Aobayama Concert

# 第12回 青葉山コンサート プログラム

2020年1月17日(金) 17:30-19:20 (開場 17:00)

東北大学 青葉山キャンパス 工学研究科 青葉記念会館

いろいろな芸術があるなかで、とりわけ音楽に親しむときに青葉山での日々の勉強が生かせる。音の高さ、音階、和音、平均律、純正律などの音楽の基礎は簡単な数学で説明できる。私が好きなクラシックギターは音量が小さいところに難点があるので、音量(利得)を大きくするように設計すると、逆に高音域(帯域幅)が出なくなってしまうという。これは、電子回路で習った増幅器の  $\text{利得} \times \text{帯域幅} = \text{一定}$  という性質のギター版かと思うと、学生のときに聴いた講義では分からなかったことが今ならよく実感できる。楽譜は、繰り返しや飛越があつて計算機のプログラムにととてもよく似ていて、演奏者を制御するプログラムと考えてよい。そうは言っても、計算機はプログラムの指示どおりに動いてくれるのに対して、私たちは楽譜の指示どおりになかなか動けないので、演奏のミスが多発するのはご愛嬌と見てほしい。

さて、いろいろなことを書いてきましたが本当はここからです。青葉山コンサートも12回目の開催となり、出演者の技量も向上し、お客様方の耳も肥えてきてコンサートへの要求もますます高まっているように感じます。本コンサートは教職員と学生による手作りの演奏会であり、とくに青葉山で開催していることでもありますので、私たちの日々の勉強や思索、苦悩(?)の成果を音楽に大いに生かして、本コンサートをもっと面白く魅力的なものにして行きましょう。 青葉山コンサート実行委員 川又政征

開催挨拶 機械系同窓会幹事 足立幸志 教授

## 第1部 (17:30-)

- |   |  |  |
|---|--|--|
| 1 | 平均律クラビーア曲集第1巻第1番 ハ長調 BWV 846 /<br>J. S. Bach 作曲<br>井樋慶一(Pf)<br>情報科学研究科 教員              | ピアノソナタ第10番 ハ長調 KV 330 から第1楽章 アレグロ・モ<br>デラート / W. A. Mozart 作曲<br>バッハ平均律の中で一番好きな第1番ハ長調ですが曲の理解と共に旋律の歌い方も<br>変わってきました。モーツァルトのハ長調のソナタは最近やっというリズムで演奏できる<br>ようになってきました。こよなく美しいこの2曲を精一杯演奏いたします。 |
| 2 | エストレリータ / M. M. Ponce 作曲<br>枯葉 / J. Kosma 作曲<br>お祭りマンボ / 原六郎作曲<br>田原靖彦(Mn)<br>工学研究科 OB | マンドリンは基本的にメロディー楽器で、ソロの場合でもギターやピアノとのコンビで演<br>奏されるのが通例ですが、4組の弦があり、単音(ピッキング)、トレモロ等の使い分けも<br>出来るので、幅広い音楽表現の可能性を秘めていると考えられます。今回は、電気的エ<br>フェクトの力も借りながら、“マンドリン一人弾きの世界”にチャレンジしてみます。              |

3

川又政征(Gt)  
工学研究科 教員

### 教育的小品 / F. Sor 作曲

フェルナンド・ソル(1778- 1839)はスペイン・バルセロナ生まれの作曲家・ギター奏者です。古典派の様式の作品を多数残しており、ギターのベートーベンとも言われています。技巧的で大規模な作品だけではなく、優れた小品も残しました。その中で、とくに教育的小品(練習曲)はギターの初修者のための宝物です。ソルのギター曲はみな人間愛にあふれ、人に勇気と希望を与えてくれます。

4

Duo Cellisten  
村田 智(Vc)  
工学研究科 教員  
阿部玲子(Pf)  
賛助

### ブラジル風バツハ第 5 番よりアリア(カンティレーナ) /

### H. Villa-Lobos 作曲

ブラジル風バツハは 20 世紀ブラジルを代表する作曲家ヴィラ・ロボスの代表作です。彼はチェロも弾けたようで、第 5 番はソプラノ独唱とチェロ合奏という変わった編成のために書かれました。今回はおじさんチェロの独唱。じゃないや独奏とピアノでお届けします。

## 休憩

## 第 2 部 (18:20-)

5

星陵ドイツトロンボーン  
リオ

匂坂康平(A.Tb)  
工学研究科前期2年  
筒井温之(T.Tb)  
経済学部4年  
小熊 陽(B.Tb)  
医学部医学科4年

### Zwei Aequale für drei Posaunen WAB 114, 119 /

### A. Bruckner 作曲

アントン・ブルックナー(1824-1896)が3本のトロンボーンのために作曲した「エクアール」を演奏いたします。エクアールとは「同声」という意味で、教会での葬儀の時に主にトロンボーンのみで演奏される、歌詞のない様式を指します。宗教音楽の大家であるブルックナーの荘厳な響きを表現できればと思います。また、トロンボーンはドイツ式のもので揃えました。一般的なトロンボーンと比べて、より倍音豊かで深みのある音色をお楽しみください。

6

Duo Electro Mechanical

村田 智(Vc)  
工学研究科 教員  
川又政征(Gt)  
工学研究科 教員

### Ständchen (Serenade) D. 957 / F. Schubert 作曲

シューベルト最後の歌曲集「白鳥の歌」の 4 曲目。恋人によせる切ない思いをマンドリン風の伴奏で歌います。オリジナルはテノール独唱・ピアノ伴奏ですが、今回はチェロとギターでお届けします。

7

阿部玲子(Pf)  
賛助  
中田俊彦(Pf)  
工学研究科 教員

スラブ舞曲第 10 番 / A. Dvorak 作曲  
1886 年に出版されたスラブ舞曲第2集(Op.72.B147)の第2曲目。ウクライナ民謡の一種のドゥムカのリズムによる優雅で抒情的な舞曲を、オリジナルの連弾でお聴き下さい。

8

宮内清孝(Gt)  
情報科学研究科前期 2 年

Reflections / A. York 作曲  
Home / A. York 作曲

A. York は、リズムカルで軽快な曲や美しく壮大な曲など多岐にわたるキャッチーなクラシックギター曲を数多く作曲している。その中でも今回は、反射光できらめく情景に思いを巡らせるような曲、故郷への哀愁や温もりが感じられる曲、そんな叙情的な2曲を演奏する。

9

2 号館トリオ  
矢野裕貴(Vn1)  
工学部3年  
劉 詩韻(Vn2)  
工学研究科後期1年  
村田 智(Vc)  
工学研究科 教員

London Trios, No. 2, Divertimento in G Major  
I. Andante, II. Allegro / F. J. Haydn 作曲

ロンドン・トリオは 1794 年、ハイドンがロンドンに滞在している間に作曲した 4 曲の三重奏です。今回演奏される 2 番はアンダンテとアレグロの 2 楽章から構成され、アンダンテは「貴婦人の姿見」という歌曲のメロディーで、アレグロは前楽章の変奏です。元々は 2 本のフルートとチェロのための曲ですが、今回 2 本のバイオリンとチェロでお届けします。

## 終 演

青葉記念会館のグランドピアノは、震災後 5 年を経た 2016 年 3 月に心の復興のために機械系同窓会が寄贈したものです。

(使用可能時間：平日 9:30-19:30)

協力：工学部事務部 総務課、施設管理室

青葉山コンサート実行委員会

村田 智、 中田 俊彦、桑野 博喜  
川又 政征、井樋 慶一、佐藤 達也  
中村 肇、 中山 貴史、田原 靖彦

シンボルマーク・ロゴタイプデザイン 笹川 瑛貴  
プログラムデザイン・編集 川又 政征  
2020. 1. 17



青葉山コンサートホームページ  
[www.bio.is.tohoku.ac.jp/~aobayama/](http://www.bio.is.tohoku.ac.jp/~aobayama/)

ヴィラ・ロボス ブラジル風バッサ第5番  
アリア(中間部)  
詞 R.V. Correa 英訳からの意訳(村田)

夕べ、夢見るように美しい雲が半透明にたなびき、  
大気をバラ色に染める。  
地平線より静かに月が現れ、うっとり夜を彩る。  
身づくろいした少女のように。  
あまりの美しさに魂が不安になって、空に、大地に、  
大自然のすべてに向かって叫ぶ!

その声に鳥たちはさえずりをやめ、海面には月光が満ち溢れる。  
今、おだやかな月の光が、心を刺すような郷愁と憂愁を呼び起こす。  
夕べ、夢見るように美しい雲が半透明にたなびき、  
大気をバラ色に染める。



Heitor Villa-Lobos  
(1887-1959)

シューベルト セレナーデ  
L. Rellstab 詞 堀内敬三訳

秘めやかに 闇を縫う 我が調べ  
静けさは 果てもなし 来よや君

ささやく木の間を 洩る月影 洩る月影  
人目も届かじ たゆたいそ たゆたいそ

君聞くや 音におせぶ 夜の鳥  
我が胸の 秘め事を そは歌いつ

鳴く音に込めつや 愛の悩み 愛の悩み  
わりなき思いの かの一節 かの一節

深き思いをば 君や知る  
我が心 騒げり  
待てる我に 出で来よ君  
出で来よ



Franz Peter Schubert  
(1797- 1828)